

平成30年度第1回
 富士見市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会
 議事録

日 時	平成31年1月28日(月)			開 会 午後 2時00分 閉 会 午後 4時00分
場 所	市長公室	出席者数	委員定数12名中 出席者9名	
出席者	委 員	鏡会長、昼間副会長、岩村委員、根岸委員、金子委員、仲田委員、阿由葉委員、星委員、名雪委員		
	事 務 局	【事務局職員】 水口部長、鯉沼課長、甲佐主査、田之上		
配付資料	次第 資料1 富士見市キラリと輝く創生総合戦略に定めるKPIについて 資料2 富士見市キラリと輝く創生総合戦略に定める数値目標について 資料3 人口の動向 総合戦略の今後の進め方について 参考資料 ・「総合戦略 進捗確認シート」の見方について ・総合戦略 進捗確認シート			
公開・非公開	公開(傍聴者なし)			

会 議 事 項

I 新委員照会

II 1 開会 総合政策部政策企画課長

2 議事

(1) 数値目標、基本施策の検証等について

資料1～3を基に事務局から説明

質疑応答

委員：KPIの達成に向けては、膨大な職員のマンパワーがあったと推察される。目標に達していない指標について、人に関わる指標が多く、特に子どもに関わる指標が多いが、各指標を達成するための市の考え方を伺いたい。

また、資料3(3)と(4)の数値の関連について、伺いたい。

事務局：子どもに関わる指標について、具体的なものをあげると、保育所の待機児童数であるが、保育所の整備を平成30年度も実施し、31年度にも実施予定であり、引き続きニーズを踏まえながら対応していきたいと考えている。

続いて、出生数であるが、「子育てするなら富士見市で」の具体的な施策として、安心して生み育てやすい環境整備をするため、平成29年10月に「子ども未来応援センター」開設した。また、子どもたちが夢に向かってチャレンジできるようにするため、行政だけでなく関係団体等のオール富士見で連携する機運を高めている。市としては、希望する方が、安心して子どもを産み育てることができる環境づくりに取り組んでいきたいと考えている。

資料3(3)と(4)の関連については、(3)は総数であり、(4)は上位5自治体を抽出したものである。

会長：保育所の待機児童数について、平成29年度からカウントの仕方が変わったとのことだが、説明を伺いたい。

事務局：平成29年度から、国のカウントの仕方が変わり、育休中の方も待機児童に含めることとなった。平成29年度当初と30年度当初の人数は変わらないが、この間新規に保育所を開設している。保育所を増設すれば、保育を希望する方が増える可能性もあり、同数となっている。

会長：カウントの仕方が変わり、同数であるということは、従来のカウントをした場合には、待機児童数が減少していると想定されるため、市の取組の効果はあったものと評価できる。

委員：一つ一つの指標の数値に一喜一憂していると全体を見失ってしまうのではな

いかと思われる。よりよい住みやすいまちをつくるということは、健康のこと、子育てのこと、生活環境、自然環境、生涯学習を市全体で取り組むべきである。

子どもの学校外での教育の充実や子どもの集まれる場の確保の充実は必要であると考えている。

健康づくりなどの満足度は、公共施設を活用したいと考えている方が増えているが、施設の位置や数、閉館時間などの影響で活用できていない。

保存樹林・市民緑地・緑の散歩道の面積は、大まかに把握している数字と思う。また、それらは次の世代に残すべきものと思う。しかし、今後相続などで減少していく可能性がある。どのように維持していくのか。

事務局：総合体育館は、平成31年4月より新たな指定管理者となり、トライアルではあるが、開館時間を長くすることやメインアリーナなど個人利用を可能にし、利用しやすい環境とすることを検討している。

保存樹林や市民緑地については、管理者が様々なこともあり、他市町と比較するのは難しい。都市公園面積は県で統計を公表しており、一人当たりの公園面積において、本市は、ふじみ野市や三芳町より多い。また、相続等により、売却を希望した市民緑地や緑の散歩道に関しては、買収等により、都市公園として維持管理している。

委員：各施設の利用率の向上について、ソフト面での広報などが、必要であると思う。

市内の外国人の人口は増えているのか。

事務局：増えている。現在約2500人程度である。

委員：外国人とのトラブルを耳にするが、交流の場を増やし、文化の違いを理解することで、トラブルは減るのではないかと思う。

空家は増えているのか。

事務局：増加傾向にあるが、大きなトラブルになっているものはない。

委員：市民意識調査の概要が広報に掲載され、非常にわかりやすかったため、本会議の資料として提供した方が良い。

会議の冒頭に、シティゾーンや254バイパス、水谷調節池やびん沼自然公園の整備など市の変化について、数値だけでなく、現状の説明をしてほしい。

事務局：次回会議より、ご提案のあった市民意識調査の概要、現状の説明などわかりやすい説明の仕方を検討していく。

委員：出会いの場の創出については、県の農林公社でイベントを実施したり、結婚

相談員を地域に配置したり、ある地域によっては、青年団組織が、自らイベントを開催している。富士見市では、JAいるま野があり、協力してくれると思うので、連携した取組を検討するのも良いと思う。

委員：観光入込客数の算定はどのようにしているのか。

他自治体では、生涯学習、子どもの教育について、他市・他団体と連携していることが増えている。

富士見市では、他市・他団体との連携は何かあるのか。

事務局：観光入込客数は、管理者又は主催者が把握している難波田資料館等の来館者数や祭りなどのイベントの来場者数である。

平成29年の数値が下がっているのは、よさこい祭りの際、降雨であったことなどが影響していると考えられ、天候に左右される。

連携事業は、県の南西部地域振興センターや管内7市町と連携し、自転車ツアーのイベントを実施した。また、東武鉄道と連携した事業を検討しており、婚活イベントも候補の一つである。

委員：観光入込客数は、統計の仕方は難しいと認識している。

秩父では、西武鉄道あつての地域おこしとなっている。鉄道会社との連携は、大事であり、今後いろいろ考える必要があるのではないかと感じている。

委員：周辺市町との連携や産学官との連携は必要であると考えている。

保育士は、給料の高い都内の職場が人気であり、県内では不足していると伺ったこともあることから、市内の子育ての終わった方から力借りるのが良いのではないかと。

また、障がい者雇用など、ダイバーシティに取り組む必要があると改めて感じた。

委員：転入・転出が数値としてあるが、市内転居も多くいる。

現在空家になっていないが、高齢世帯が多い地域もあり、近い将来空家になることも想定される。地域と情報を共有し、見えない数字もあるが、把握に努めてほしい。

子育て施策、高齢施策が充実する反面、その中間層となる働く世代への施策の充実には疑問が残る。就業者数が伸びていても市内で就労している方はさほど増えていないと考える。統計数値だけでは見てとれない地域の実情もあると思う。

地域ごとに色々な団体があるが、メンバーは同じであることが多く、住民は困惑する方もいるため、統合等の検討が必要である。

委員：防犯カメラの設置について、同じ地域内の商店会、町会、PTA、に市から依頼があったが、どこが主体になるのか調整が必要であり、設置の依頼だけでなく、協議の場を設けてほしい。

会長：縦割り組織が従来から課題である。地域から主体的な提案があがるような仕組みがあると良いのではないかと思うので、委員のご意見を参考に、検討を進めてほしい。

外国人を積極的に受け入れるのか、今後大きな課題であるので、議論する場が必要である。市民も方向性によって、施策も大きく変わるため、変化を捉え、政策立案をすべきである。

事務局：昨年、タウンミーティングの際に、外国人とのトラブルの話があり、多くはゴミの出し方についてであった。平成31年度では、ゴミの出し方の多言語に対応したアプリを導入したいと考えている。今後の外国人の受け入れは、大きな課題だと認識しており、検討していきたいと考えている。

(2) 今後の予定について

資料「総合戦略の今後の進め方について」を基に事務局より説明

・次回審議会の日程：平成31年10月28日予定

今回いただいた意見、指摘事項等については、所管課と情報を共有するとともに、その対応などについては、次回審議会において報告します。

3 閉会 昼間副会長